

## 【既指定物資の取組・追加指定候補物資について】

- ✓ 既指定の11物資について様々な取組が行われていることを評価。追加指定候補物資についても納得できるもの。
- ✓ ここ数か月でも、関連規制や技術など新しい情報が入ってきているので、それらも随時反映して欲しい。
- ✓ 先端電子部品も、多用途の基盤的技術であり、技術流出はあってはならない。
- ✓ ウラン濃縮について、継続的な取組が大切。国際的な供給不足をむしろ機会として、我が国のエネルギーの自律性を高めるべき。

## 【特定重要物資指定・取組の考え方について】

- ✓ 新しい成長分野、新しい産業分野を支えるコア技術について、総合的な、大きな視点に立って、設備投資や研究開発投資、技術流出対策など、様々な政策を展開していく必要がある。
- ✓ 重要物資の特定や支援策の検討に際して、従来の産業政策の延長としての視点、国家安全保障といった高次元からの視点の双方があると思っている。科学技術政策の議論においても、少しずつ後者の視点が必要になってきている、という感覚がある。
- ✓ これまで、ボトムアップ的に様々な課題が提示されてきたが、トップダウン的な先回りした政策が重要になってくると思う。
- ✓ 今後は、友好国を意識した経済安全保障という考え方も必要かと思っている。一方、友好国であっても、デジタルサービスを依存することになれば、我が国の国富や技術が流出することになりかねない。
- ✓ 技術インテリジェンスを高める取組も推進する必要がある。
- ✓ 重要な技術について、中堅・中小企業によって担われていることも多いが、各企業だけでは対策を充分には講じられていない状況になっているように感じる。
- ✓ 技術流出を防ぐため、例えば海外工場での生産において直面するリスクへの対処なども検討すべき。
- ✓ 我が国は人口減少によりマーケットとして小さくなっていく。各国において補助金等による生産拠点の誘致が行われている中であって、E P A・F T Aなどの経済連携を進めることでマーケットを創っていく努力が必要。

## 【諸外国との連携について】

- ✓ 支援に当たっては、内外無差別の原則を貫徹することが重要。有志国・友好国との間でも無用の軋轢が生じないように注意すべき。
- ✓ 米国は、ウクライナに加え、中東でもリソースを消費することが想定され、武器の生産能力が限界に近付きつつある。我が国も同盟国として、どのような協力ができるのか、政府内で積極的に議論していただきたい。

## 【取組の評価・調査について】

- ✓ 達成目標を念頭に、認定事業者における達成状況について、どのように評価していくのかを考えていく必要があるのではないか。
- ✓ サプライチェーン調査については、取組を効果的に行うため、確実に行うことが必要。